

### いよいよ市民中心の百年塾運動がスタート

日立市では、生涯学習を市民の主体的な参画によって推進しようという考えに基づき、その推進計画づくりから推進本部の組織づくりまで一貫して市民主導ですすめてきました。

昭和61年6月に市民17名で構成する「ひたち生き生き21生涯学習市民会議」を発足し、約2年かけて策定した「ひたち生き生き百年塾プラン」を、昭和63年4月、日立市長へ提言しました。

日立市では、このプランの提言を受け、日立市としての生涯学習は、このプランに添って推進していくこととし、その事務局は、当面教育委員会社会教育課が担当していくことになりました。

計130名の委員で構成するいわゆる市民・行政一体型の「ひたち生き生き百年塾推進本部」が正式発足し、現在、①企画広報②事業③市民教授④学校教育⑤情報システムの5つの専門部会に分かれて、積極的な討論と各種事業の調整を図りながら、実践的な運動をすすめています。

#### 動き出した専門部会

##### まず百年塾のPR—企画広報部会

この部会は、百年塾運動の総合企画と予算の調整、市民への啓発広報、関係施設の整備やネットワーク化を図っていきます。

現在は、百年塾運動を一人でも多くの

市民に理解してもらうために、市報へ定期的に記事を掲載したり、この機関紙の編集発行を担当しています。

##### イベント・事業を企画—事業部会

この部会は、公的な学習事業を企画したり、企業や民間カルチャー産業等で実施しているさまざまな学習事業の調整を図っていきます。

11月20日に百年塾推進本部の発足を記念して、市内の老若男女が展開している「私の生涯学習発表」や「記念講演会」を盛り込んで実施したイベントの企画運営も担当しました。

##### 好調な市民教授登録—市民教授部会

この部会は、百年塾運動をすすめていくうえで人材の確保と活用という点で大切な市民教授の募集と活用をすすめていきます。10月20日から募集を開始しましたが、大学教授など従来の講師のほかに、「つけもの教授」「凧づくり教授」などユニークな市民教授の推薦・登録がたくさん寄せられ、11月16日現在414人に達しています。

##### 施設開放等を調査—学校教育部会

この部会は、生涯学習社会に対応できる学校教育のあり方を研究したり、モデル事業の検討を図っていきます。

現在、学校教育現場における学校施設開放の現状や地域の市民団体との連携状況についてアンケートの調査を実施しています。この調査は、来年の3月までにまとめられ、百年塾運動における学校教育のあり方を探っていくことに活かされる予定です。

##### パソコン通信を研究—情報システム部会

この部会は、百年塾関係情報の収集と整理、市民からの情報提供の要望に答えられるシステムづくりを目指しています。

このシステムは、パソコン通信方式を使う予定で、現在情報提供メニューとしては、市民教授情報、学習事業情報、学習施設情報、学習グループ情報を考えています。

現在、専門部会委員のパソコン通信方法学習会などを通じて事業の推進を図っています。

### 百年塾を拓く 日立市教育長 飯山利雄

百年塾には、2年間にわたってこの構想をまとめた市民の皆さんがたの、熱い「思い」ともいうべきものがこめられている。その思いとは、人それぞれに生き方はあるが、お互いが存在感のある人生をきり拓くために、どんな自分であればいいのか、まわりとのふれあいの中で真摯に探していきたいとする自己発見の道への祈りでもあり、呼びかけでもある。それらの思いが多く市民の共感に支えられて、今新しい道を歩きはじめようとしている。

百年塾の柱として私が理解しているのは、三つである。一つは、市民の意思で決定し、運営すること。市民主体を名目のものではなく、自らの手で実践していくのである。二つは、学習と実践を一体として進めること。まちなか学習を合点として、学習と活動のドッキング戦略をみだすのである。三つは、「共育」である。どんなに些細なことでもよい。むしろ日常的で身近なことの方がよい。お互いがもっている個性的なものを発掘しあい、役割分担をし、支えあっていく。切磋琢磨を日常茶飯のものとしたい。お互いが師であり、弟子である。

人間誰でも、真の自分でありたいと願っている。自分の生涯を少しでも満ち足りたものにしたいと念じている。しかし、ある識者はいう。「今やこの世に人間はいない。あるとすれば、そ



れは人間の断片である。断片の集合から、いったい何が生れてくるのだろうか。この痛烈な文明批評に顔をそむけるわけには

いれない。百年塾は、断片から人間へ成長するための新しい舞台である。生きがいづくりとまちづくりのための、新しい「まんだら」開拓のフィールドである。まんだらは、個を大切にしながら、しかも全体を至上とする、全くの調和の世界である。

私たちが、生涯かけて自分を伸ばしていく。自己充実をめざす。当然まわりとのちがいがでてくる。そのちがいを尊重しながらも、常に合意と調和を求めていく。共存発展のカギは、この新しいまんだらづくり以外にない。そのノウハウを百年塾でみだしたいのである。日立市をよりよいまちにするための、市民手づくりの舞台、それが百年塾である。

賢く生きるとは  
精いっぱい生きることであり  
常に前向きに生きることであり  
与えられた寿命が尽きるまで  
たえずさまざまな物事に感動し  
何かに没頭して生きることであり  
(アーノルド・ベネット)

### 市民教授1000人募集 ひたち生き生き百年塾

「あなたもわたしも市民教授」と、10月20日百年塾の市民教授募集が始まりました。あなたの特技・知識を少しだけわけてください。

〈登録できるかた〉  
むずかしく考えずに、生活の知恵を共に学び、教えあえるかたを歓迎します。

● 技能・技術をお持ちのかた  
つけものづくり、日曜大工、盆栽づくり、凧づくり、きのこ狩り、折り紙などのほか芸術、文化、スポーツ、日常生活全般。

● 専門的な知識・能力をお持ちのかた  
学術、文化、スポーツ、医療、経済、科学など。

〈申し込み〉  
「市民教授登録申込書」を公民館や社会教育課へ。

申込書は、公民館等にありますが、申込書など関係資料を送ります。自薦、他薦どちらでも結構です。

〈問い合わせ〉  
ひたち生き生き百年塾推進本部

(事務局 社会教育課)  
電話 22-3111  
内線 424、423

### 市民教授に 群馬県から応募

新聞報道された百年塾プランが各地で大きな反響をよび、市民教授募集には県外からの応募がありました。

その人は、群馬県榛名町白岩に住む、大正14年生まれの浜名光大さんです。精神薄弱児(者)の施設に勤務され、その間重症心身障害者と共に10年間生活し「人と人とのふれあいの大事さ大切さを彼らから学びました。体験学習を通して得た福祉に対する心がけを、関心をお持ちの方と話し合いたい」と応募の動機を語っています。申込み用紙に同封されてきた浜名さんの手紙をご紹介します。

★ ★ ★  
前略 過日お電話致しましたところ早速貴重な資料と共に申込み用紙を御送付戴き感謝申し上げます。

御日立市の人生百年生涯学習に対する並々ならぬ御熱意がうかがえ感動致しました。当群馬町町として貴重な参考資料とさせ地域生涯学習活動の中に活用させて頂き度いと思っております。草々  
昭和63年10月24日

浜名 光大  
日立市社会教育課御中

★ ★ ★

### 百年塾 けいじばん

**教えます**  
市民教授に現在までに次の分野に登録がありました。習いたい方は事務局又はお近くの公民館におたずねください。  
・家庭菜園教授 ・すずき釣り教授  
・自然観察教授 ・自転車の修理教授  
・インターナショナルビジネス教授  
・ポルトガル語教授 ・鮎の友釣り教授

・けん玉道教授 ・塗装教授  
・手打ちうどん教授 ・百人一首教授  
・いなごの取り方教授  
・縄文式土器づくり教授  
**習いたい**  
・ワープロ ・パソコン ・英会話  
・外国料理 ・老後の暮らし  
・子どものアドベンチャー技術



# あの人 生涯学習 この人

## 現役時代以上に充実



勤めを定年退職した私がかねてからの念願である晴耕雨読の生活に入り、自然の恵みと労働の汗の喜びにひたる日々を過していました。たまたま昭和60年3月の日立市報で多賀公民館主催の「歴史と人物」をテーマにした長寿大学院のあることを知り早速受講生の一員となりました。長寿大学院の運営方針が「受講生自身の手による運営を基本とする」ことに重点をおき、目的として「生きがいのある日々を過ごすため積極的に学習し高齢者にふさわしい社会的能力を身につけ趣味と教養を高めるとともに、院生相互の理解と仲間づくりを図る」ことと、うたっていることは高齢化社会に一步踏み入れた私には一つの希望の頁でもありました。長寿大学院ふるさと講座に学んで4年。学習したテーマは幕末水戸藩を中心にしんものが主で、それに吉田松陰、常陸地方における親鸞や平将門の乱などがとり上げられ、水戸周辺史跡の現地学習を行いその感を更に深くした。年令差や異性差を感じない院生同志の語り、受講生仲間の輪の広がり、学びの楽しさ、知るよそが湧き、新しい

## おばさん応援団長

中村サタさん (中成沢町)

中村サタさん。中成沢地区で、この名を知らない人はいない、と言ってもいいほど有名なおばさんです。中村さんは、おばさんと呼ぶにはふさわしくない雰囲気を持っています。中村さんは、かつてテレビ放映までされた中成沢ジャイアンツ(中成沢楽舞会の有志でつくっているソフトボールクラブ)の応援団長です。発足以来10年間、部



員を励まし、接待役を引き受けて、本年県代表で全国大会に出場するほどまでに育てあげた裏方さんです。部員たちは、試合の時は勿論、練習の時でも、中村さんの声援がないと、力が出ないとのことです。また中村さんは、「公民館の芝生の草が伸びたから、明日の朝、草引きするよ」と何人かの人に呼びかけて、奉仕をしています。自分たちの公民館だから、自分たちで気持よく使えるようにしよう、という気持は、地域のみんが持っている、すぐ応じてくれるそうです。人のためになることをするのに遠慮はいら

ない、と積極的に奉仕活動をして、前向きに生きているところがすばらしい。中村さんは、自分の教養を高めるためにも積極的に楽寿大学(老人学級)の学生として、一般教養を学びグループで詩舞を習っています。若い女性たちに、「老後は、中村さんのように生きてみたい」と言われているすばらしいおばさんです。



中成沢ジャイアンツとママさんソフトとの親睦試合

今橋 麗さん (多賀町)

人生への道が見出されつつあることは生涯学習を続けたいと思う者にとって限りない喜びです。このことは現役現代には見られなかった巾広い人生の一頁であります。(65才)

## 助川海防城模型つくりの幻の設計図探して

谷田川庄策さん (城南町)

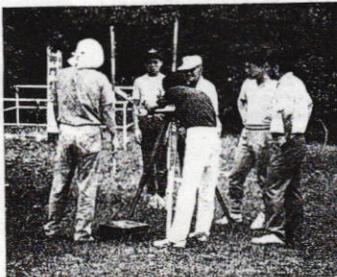
今から150年前、当時の日本では独特の城郭として築城され、天狗・諸生の騒乱で焼失した助川海防城の模型による復元のため、幻の設計図探索に奔走している人です。この起こりは、助川小学校の児童数が減少してできた空き教室を郷土資料室として生かし、郷土の歴史を知る資料提供を、地元の人たちに協力を求め展示したのが発端で、是非とも助川海防城の模

型をつくり展示しようということになりました。しかし設計図なしでは複製することができず、そこで助川城模型製作委員会を発足させ、家臣団の子孫ということで、資料集めの中心となって活動を始めたのが、昭和62年11月からでした。家臣の末裔を尋ねては、所有している古文書の提供を申し入れ、出てきた氏族のルーツを求めて活動も広範囲となり、いづれも足をたよりにつけられました。収集した文献の解説と、航空写真の分析、幻の海防城の姿を想像しながらの探索は、必然的に郷土の歴史を学ぶこととなり、時代背景の広がりを知ることは、

復元に必要ないように思われるが、その蓄積されて行く過程は学習そのものです。図面が現れないまま、手に入れた資料を元に現地測量が建築士会の協力で行われ、文献と遺構を重ね合わせる作業が現在行なわれています。



『調査に携わる人に和が生まれ、トントン拍子に復元に向けて進展しています』と語る谷田川さんは、郷土愛に燃え生涯学習を地で行く人。(71才)



城跡の測量作業

## 20代のコミュニティリーダー 小森康弘さん (金沢町)

青年の社会参加が極めて少ない状況の中で、小森さんは自治会や諸団体の役員に混じって退勤後、定例幹事会の会議に出席します。

また、病院勤務の彼は、夜勤の朝、さんさん祭りの大久保市民広場にかけつけ子どもたちが楽しみにしているリフト・トレインを走らせませす。

彼は、高校生のとき、YLC(ヤングリーダーズクラブ)の会長として市内の子ども会の各種指導を豊富に経験し、そのノウハウを生かして現在、自分の住んでいる塙山学区で青年部長をつとめています。市内でも珍しい20代のコミュニティリーダーとして5名の青年部幹事をまとめながら、各種イベントを企画し実践しています。

社会参加を敬遠する若者が増えている中で、夜勤などたいへんな病院勤務にも

かわらず、余暇時間を調整して、自分のお父さんやおじさんぐらいの年齢の役員と一緒に、若者の新鮮な発想や行動力を地域活動のために役立てているのです。毎年12月に行っているもたちに夢をプレゼントする「サンタ宅配便」やYLCの経験を生かした楽しい「もみの木まつり」などを同じ青年部のスタッフとともに企画し、今年もその準備を進めています。



日立市においても、65才以上の高齢人口が、今年の1月、全人口に占める割合が10%を超えるなど、高齢社会がすすむ中で、コミュニティ活動を支える役員がかなり高齢化し、さまざまな問題を抱えています。小森さんのような20代前半の役員が、地域で活躍していることは、これからのコミュニティ活動にすばらしい希望を与えるものです。(24才)



地域と子どもと「もみの木まつり」

## 女性のすばらしさ再発見 坂根一男さん (大久保町)

永い勤めを終って少し退屈した頃、何かやる事がないかなあと思っていた矢先、ある友人から丁度タイミングよく「市報に市民講座企画運営委員を募集しているから、応募してみたら」と突っかかれたんですよ。生来の好奇心の旺盛さから、何事も経験と早速応募した訳です。今から考えるとちょっと軽率の感がありました。それが1年前です。委員になってからが大変でした。市民講座に対する腹案がある訳でもなし、何を発表したらいいのか、黙って委員の人達の発言を聞き消化することで精一杯でした。ところが、人間なんて良くしたもんで、知らず知らずのうちに、皆さんの話の中に入り、何か喋っているのです。そして委員をやって今年で2年目です。今後ですか。石の上にも3年といいますが、もう1年頑張ると今年出来なかつた事をやってみたく思っています。希望したいことは、若い人達に積極的に参加してもらいたいことです。最後に感じたことを1つ言いますと、これまでの生活の中では出会えなかつたタイプの市民活動に情熱を傾けている多くの女性に接し、その力量に

驚き感動したことです。今の女性の成長していく過程を目の当りにし、学ぶ所が多く楽しんでいます。女性は半天下を支えるといわれますが、まさに実感です。私も固苦しく考えず、肩の力を抜いて、やってみようつもりです。(談話)



## 民謡一すじ70年

番場平太さん (滑川本町)

満92才になる番場さんは、補聴器を使うものの背すじがピンと張ってとても元気です。20代の頃は謡(宝生流)をやっていたんですが、6年間の軍隊生活で民謡と尺八をはじめ、それ以来ずっといろいろな民謡を勉強、20年ほど前から教えるようになりました。

若い頃はあちこちに教えに行つたようですが、今は永正区(毎週木曜日)、鹿島老人の家(毎週金曜日)と地元滑川の

老人ホーム高寿園に月2回、愛器の尺八を持参して、ほとんど休むことなく通っています。この他、日本盆箏協会には昭和29年発足以来の会員として、民謡の指導日以外は、尺八を箠にかえて手入れを楽しんでいます。

